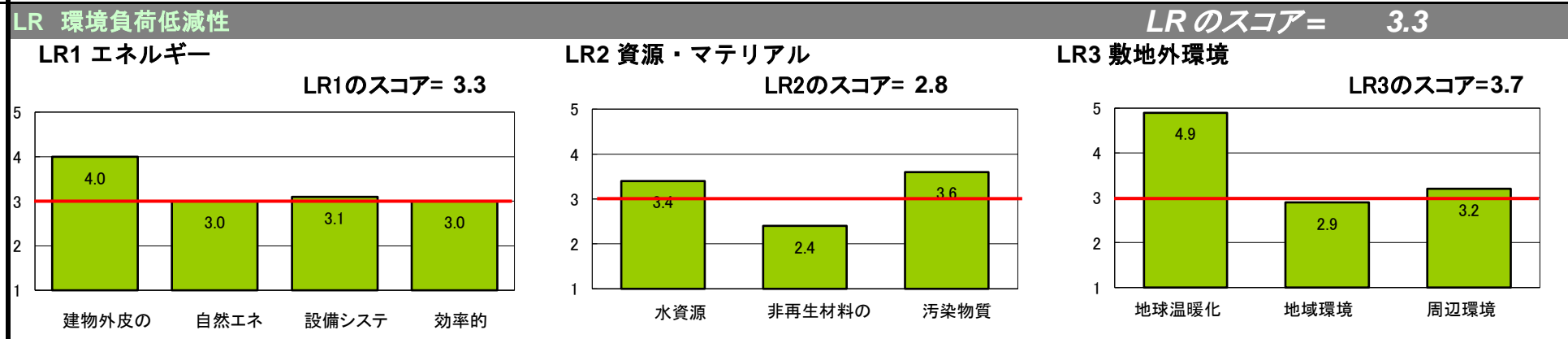
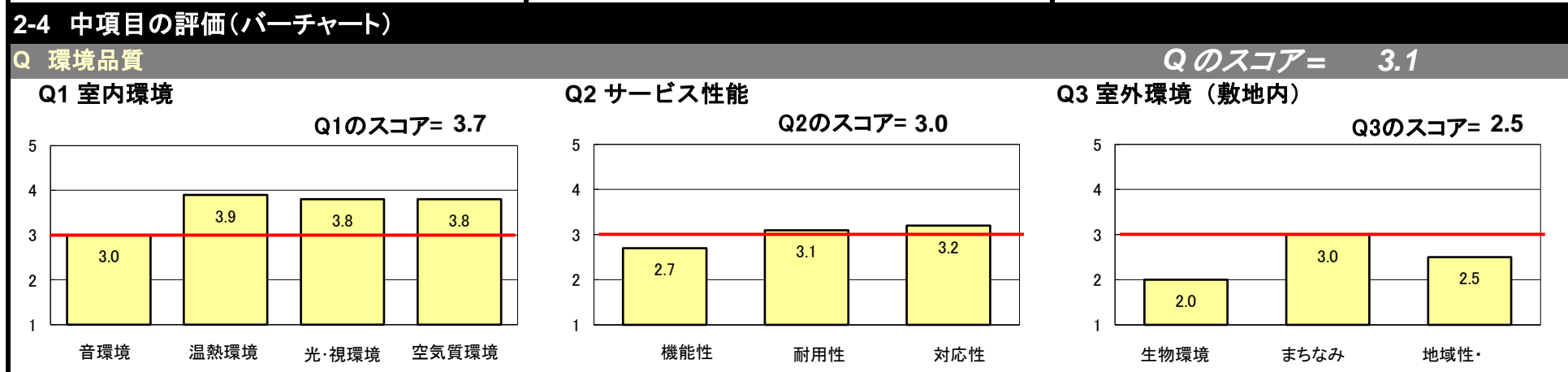
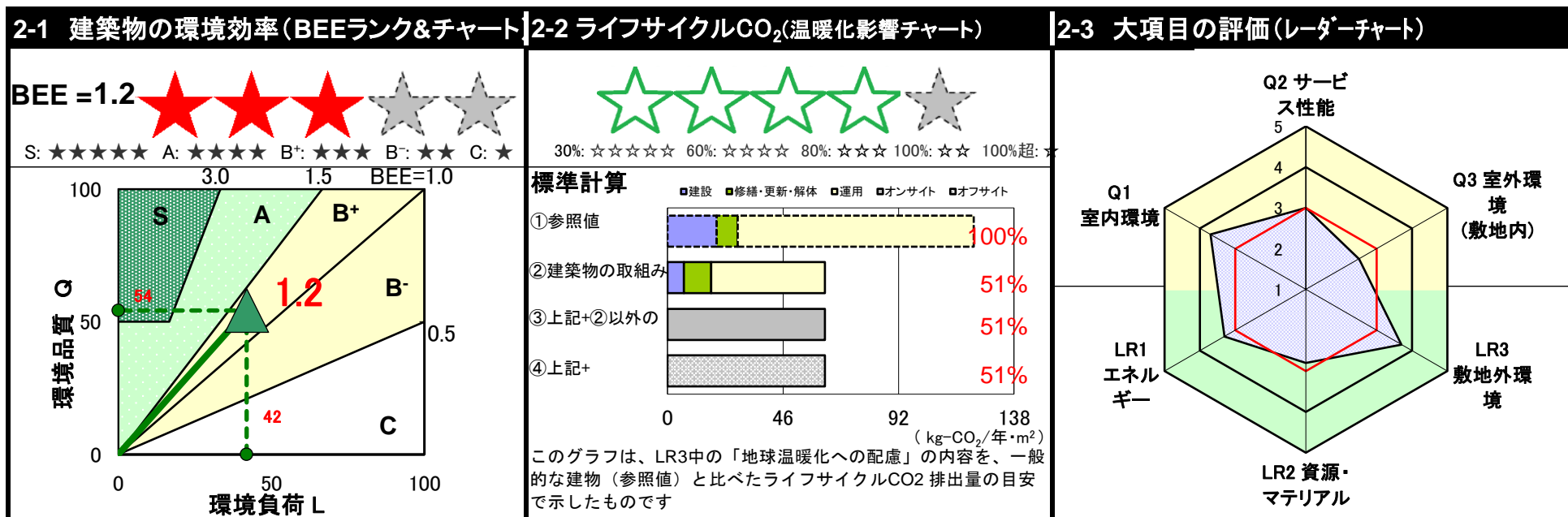


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)モアグレース新生三丁目	階数	地下13階地上0階
建設地	愛知県一宮市新生三丁目10-4,5,6,20,21	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	80人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年03月 予定	評価の実施日	2022年08月31日
敷地面積	1,461 m <sup>2</sup>	作成者	八木 俊典
建築面積	331 m <sup>2</sup>	確認日	2022年09月07日
延床面積	3,210 m <sup>2</sup>	確認者	阿部 洋二



3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p><b>4.9</b></p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p><b>2.0</b></p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p><b>22.8 %</b></p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p><b>0.0 %</b></p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p><b>2.7</b></p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p><b>1.0</b></p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	重み係数	住居・宿泊部分		重み係数	全体			
					評価点	評価点					
<b>Q 建築物の環境品質</b>											
<b>Q1 室内環境</b>											
<b>1 音環境</b>											
1.1 室内騒音レベル		0.1	3.0	0.15	3.0	3.0	1.00	3.0			
1.2 遮音		0.5	3.0	0.50		3.0	0.50				
1 開口部遮音性能				1.00		3.0	0.30				
2 界壁遮音性能						3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	0.20				
1.3 吸音											
<b>2 温熱環境</b>											
2.1 室温制御		0.3	3.0	0.35	4.0	4.0	1.00	3.9			
1 室温		1.0	3.0	1.00	4.0	4.0	1.00				
2 外皮性能		3.0	-	-		-	-				
3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	1.00	4.0	4.0	1.00				
2.2 湿度制御		3.0	-	-		-	-				
2.3 空調方式		3.0	-	-		-	-				
<b>3 光・視環境</b>											
3.1 昼光利用		0.2	2.0	0.25	4.0	4.0	1.00	3.8			
1 昼光率		0.3	1.8	0.30	4.0	4.0	0.50				
2 方位別開口		3.0	1.0	0.60		5.0	0.50				
3 昼光利用設備		3.0	3.0	0.40		3.0	0.30				
3.2 グレア対策		0.3	1.0	0.30	4.0	4.0	0.50				
1 昼光制御		5.0	1.0	1.00		4.0	1.00				
3.3 照度		3.0	3.0	0.15		-	-				
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.25		-	-				
<b>4 空気質環境</b>											
4.1 発生源対策		0.2	3.6	0.25	3.8	3.8	1.00	3.8			
1 化学汚染物質		0.6	4.0	0.60	4.0	4.0	0.63				
4.2 換気		0.4	3.0	0.40	3.6	3.6	0.38				
1 換気量		3.0	3.0	0.50		3.0	0.33				
2 自然換気性能		3.0	-	-		5.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	3.0	0.50		3.0	0.33				
4.3 運用管理		-	-	-		-	-				
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	-	-		-	-				
2 喫煙の制御		3.0	-	-		-	-				
<b>Q2 サービス性能</b>											
<b>1 機能性</b>											
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	2.4	0.40	2.8	2.8	1.00	2.7			
1 広さ・収納性		0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.60				
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	-		3.0	1.00				
3 バリアフリー計画	独自	3.0	3.0	1.00		-	-				
1.2 心理性・快適性		0.3	1.0	0.30	2.5	2.5	0.40				
1 広さ感・景観(天井高)		3.0	-	-		4.0	0.50				
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-		-	-				
3 内装計画		3.0	1.0	1.00		1.0	0.50				
1.3 維持管理		0.3	3.0	0.30	-	-	-				
1 維持管理に配慮した設計		3.0	3.0	0.50		-	-				
2 維持管理用機能の確保		-	3.0	0.50		-	-				
<b>2 耐用性・信頼性</b>											
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	3.1	0.31	-	-	-	3.1			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.5	0.33	-	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		-	5.0	0.23	-	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-	2.0	0.23	-	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	5.0	0.15	-	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-				
2.4 信頼性		0.1	3.0	0.19	-	-	-				
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-				
2 給排水・衛生設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-				
3 電気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-				
4 機械・配管支持方法		3.0	4.0	0.20	-	-	-				
5 通信・情報設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-				

3 対応性・更新性			0.2	3.0	0.29	3.3	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり			-	-	-	3.6	3.6	0.50	
1	階高のゆとり	階高:2.96m。	-	-	-		4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	-	-		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		②	1.0	3.0	1.00	-	-	-	
1	空調配管の更新性		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4	3.0	4.0	0.33	-	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.17	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.99	3.0	3.1	0.33	-	-	-	3.1
4 効率的運用			0.1	3.0	0.17	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	-	-	
集合住宅の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	0.50	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	2.8
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	1.00	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	-	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.4	0.63	-	-	-	2.4
2.1 材料使用量の削減		② 独自	-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	3.0	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	3.0	2.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	3.0	3.0	0.24	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0, GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	-	4.0	1.00	-	-	-	
3	冷媒		3.0	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮		① ライフサイクルCO2排出率52%	-	4.9	0.33	-	-	-	4.9
2 地域環境への配慮			0.3	2.9	0.33	-	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.7	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	污水处理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自	-	-	-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」のチェックリストの項目の過半を満たしている。また広告物照明を行っていない。	-	5.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)モアグレース新生三丁目

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.9</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.9	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.7</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:22.8%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1



## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)モアグレース新生三丁目

計画上の配慮事項	
総合	<p>利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。                      主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。                      ライフサイクルCO2排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。</p>
Q1 室内環境	<p>2.0%≦[昼光率]                      カーテンと庇にて昼光制御している。                      居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保している。</p>
Q2 サービス性能	<p>住居・宿泊部の天井高2.5m以上。                      日本住宅性能表示基準「3.劣化の軽減に関すること」で等級3相当                      耐震クラスA                      階高:2.96m。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>防犯性の配慮</p>
LR1 エネルギー	<p>BEI=0.99</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。                      ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。</p>
LR3 敷地外環境	<p>「光害対策ガイドライン」のチェックリストの項目の過半を満たしている。また                      広告物照明を行っていない。</p>
その他	<p>特になし</p>